

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>① 量と質の確保を踏まえ、生徒の資質・能力を向上させる教育課程編成と、組織的な授業改善、時代の変化と国の施策に対応した教育の推進に取り組む。</p> <p>② 生徒主体の学校行事や生徒会活動を推進する。</p>	<p>① -1 生徒のニーズに応じた教育課程の編成を図る。</p> <p>① -2 「生徒が主体的に考える」授業、生徒自身の「気付き」「達成感」のある授業を行う。</p> <p>② 学校行事や生徒会行事に生徒が主体となって取り組むために、各組織におけるリーダーを育成し、生徒が生徒を導く組織作りを展開する。</p>	<p>① -1 様々な観点から生徒のニーズをとらえた教育課程を編成する。またその実施に向けて取り組む。</p> <p>① -2 アクティブラーニングの視点を踏まえた授業づくり組織的に取り組む。</p> <p>② -1 学校行事や活動の企画段階からリーダーと十分な打ち合わせを持つとともに、リーダーがリーダーシップを十分に発揮できるよう組織作りと支援体制を整える。</p> <p>② -2 生徒会、各委員会、各部活動としての年間のテーマを掲げさせ、主体的な活動を導く。</p>	<p>① -1 生徒のニーズをとらえた教育課程の編成ができたか。またその実施に向けて取り組めたか。</p> <p>① -2 生徒による授業評価の項目4における「4かなり当てはまる」の回答率4割以上になったか。</p> <p>② -1 生徒リーダーがリーダーシップを発揮し、生徒が主体となった活動を展開できたか。(アンケート)</p> <p>② -2 テーマを掲げ、そのテーマに沿った活動を主体的におこなうことができたか。(アンケート)</p>	<p>① -1 教育課程の見直しを適切に行うことができた。</p> <p>① -2 KAMINAN 授業研究として、6月教頭より、7月外部講師による研修会を開き、アクティブラーニングの視点を踏まえた授業実践を図ることができた。生徒による授業評価の集計結果では、「4かなり当てはまる」が30%と4割(40%)には届かなかった。しかし、「3やや当てはまる」を含めると70%を超えており、全体的に肯定的。</p> <p>② -1 「チームでチャレンジ」のスローガンを掲げ、行事の企画段階から、生徒自身が考える時間を多く設定した。結果、体育祭・文化祭とともに、生徒リーダーが全体を掌握し、生徒が主体的に動く運営を行った。</p> <p>② -2 4月に各部に年間を見通した活動におけるスローガンを掲げさせ、2月にはそれに基づいた活動ができたかを検証させた。また、部活動連絡ボードを活用し、各部の活動状況、大会結果などをリアルタイムに発信することができた。</p>	<p>① -1 新しい教育課程の実施段階での細部の調整を引き続き行い、切り替えに伴う混乱がないように運営する。</p> <p>① -2 今後も KAMINAN 授業研究を継続し、アクティブラーニングの視点を踏まえた授業の実践により生徒の理解力を高め、学力向上につなげる。</p> <p>② -1 学校行事や部活動がリーダーシップを醸成する場となるよう、さらに検討を重ね、行事の企画立案運営をサポートしていく。</p> <p>② -2 現在の上溝南高校では、本校の部活動の牽引役、リードオフマン的な部活動が必要である。そのような部活動が現れるよう、多くの部活動を全体的に支援する仕組み作りを検討したい。</p>	<p>① -1 (保護者) 課題の充実度について肯定的な回答は44%だった。(学校評議員) 次年度以降の文理分けした教育課程での指導に期待する。</p> <p>① -2 (保護者) 授業のわかりやすさについて、肯定的意見46%。(学校評議員) 学校へ行く週間での授業見学で生徒が生き活きと授業を受けていた。</p> <p>② -1 (保護者) 行事への積極的参加について90%以上が肯定的な回答。行事は全員が楽しんでいて大変良い、という意見もあった。(学校評議員) 生徒との触れ合いの時間を大事にすることにより将来「良い人生を送っているな」と思ってもらいたい。</p> <p>② -2 (保護者) 部活動・生徒会活動の活発度に、85%が肯定的な回答をしている。(学校評議員) 教育は種まき、すぐは結果が出ない。教員による多くの刺激で、スイッチが入る。</p>	<p>① -1 教育課程編成の見直しを行うことができたので、今後適切に切り替えることが課題である。</p> <p>① -2 組織的にアクティブラーニングの視点を踏まえた授業の実践について共通理解を図ることができた。今後、その実践から学力に繋げることが課題である。</p> <p>② -1 様々な場面において「チームでチャレンジ」のスローガンが全生徒職員に定着した。今後、チームリーダーを育成し、いろいろな学校行事や生徒会行事を活性化させる。</p> <p>③ -2 「チームでチャレンジ」のスローガンのもと、各部活動、委員会がそれぞれテーマや目標を掲げて、オープンマインドな活動ができた。今後は、学習との高いレベルの両立を目指す。</p>	<p>① -1 新しい教育課程に切り替える段階において混乱やミスがないように運営する。</p> <p>① -2 全職員生徒でアクティブラーニングの視点に沿った授業に積極的に取り組み、「気付き」「達成感」を高め着実に学力につなげる。</p> <p>② -1 リーダーがリーダーシップを十分に発揮できるように組織作りと支援体制を整えるとともに、その取組が継承されるように指導していく。</p> <p>② -2 文武両道のために、部活動の中での学習面のサポート体制を作っていく。また、部活動と学習の切り換えを明確にし、部活動が学習の妨げとならないようにする。</p>
2	生徒指導・支援	<p>① 生徒一人ひとりのニーズに応じた支援体制を組織的に行う。</p> <p>② 生徒の交通安全意識を涵養し、事故防止に取り組む。</p> <p>③ 部活動の活性化を通して、責任感、連帯感、リーダーシップの涵養を図る。</p>	<p>① -1 生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるよう支援体制を充実させる。</p> <p>② -1 生徒の登下校の安全管理及び、交通安全に係る啓発活動に努め、交通事故を減少させる。</p>	<p>① -1 教育相談担当、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの連携による支援体制の充実を図る。</p> <p>② -1 交通安全指導に計画的に取り組むとともに、自転車通学者を対象とした交通安全講習会を実施する。</p>	<p>① -1 支援の必要な生徒の状況を的確に把握するとともに、校内の支援体制の活用により、効果的に対応できたか。</p> <p>② -1 交通安全指導を推進し、交通事故の減少につながったか。</p>	<p>① -1 生徒連絡協議会を早期に実施し、支援の必要な生徒の状況について、共通理解を得ることができた。スクールカウンセラーとの連絡調整を図るとともに、支援の必要な生徒に対してはケース会議等を開催し、チームとして支援にあたることができた。[相談件数] スクールカウンセラー・49件、スクールソーシャルワーカー・2件。</p> <p>② -1 交通事故の件数は増加したが、予定していた交通安全指導に加え、臨時的交通安全安全集会の開催、集会やHRでの注意喚起等、年間を通じて交通事故防止に対する啓発をおこなった。</p>	<p>① -1 生徒指導については、全職員で共通理解を図り、職員全体で取り組む体制をさらに充実させていく。</p> <p>② -1 通学中における交通事故を減少させるための対策を検討し、交通安全指導をさらに推進していく。</p> <p>-2 新年度にスケアードストレイト(スタントマンによる実感学習)を行う予定である。</p>	<p>① -1 (保護者) 自分のクラスの楽しさについて、80%以上が肯定的な回答。挨拶も気持ちよく、生徒は学校に心地よさを感じている。(学校評議員) 落ち着いた生徒が多く、さらに運動部の生徒は元気よく挨拶してくる。</p> <p>② -1 (保護者) 事故発生箇所のマップ等を作成し生徒に注意を促してほしい。(学校評議員) 保護者と学校が力を合わせて、事故防止に努めていく必要がある。文化祭でのPTA交通安全コーナーの体験参加者を増やしたい。</p>	<p>① -1 生徒連絡協議会を適切に実施したことで、支援の必要な生徒の状況について、共通理解を得ることができた。今後も組織的なサポート体制のさらなる充実を図ることが課題である。</p> <p>② -1 教員、保護者、交通安全協会の三者の協同による交通安全指導を行うことができた。今後、より効果的な研修・指導が求められる。</p>	<p>① -1 教育相談コーディネーターの知識や経験を職員間で共有し、課題をもつ生徒支援体制を一層充実させる。また、外部機関との連携を密にするとともに、学校生活アンケートをさらに充実させ、教育活動に役立てる。</p> <p>② -1 これまで通りの交通安全指導に加えて、次年度はスケアードストレイト(スタントマンによる実感学習)を行うことで生徒の意識改革に繋げ事故防止に役立てる。</p>

3	進路指導・支援	<p>① 生徒一人ひとりの可能性を広げ、高めた進路実現を図る。</p>	<p>① 外部模試、検定等の実施と振り返り指導を効果的に行う。</p>	<p>① -1 1、2年生は、年2回のスタディサポートを活用する。 ① -2 3年生は 校内模試の参加を促し、結果を有効に活用する。</p>	<p>① -1 生徒の家庭学習の状況に改善が見られたか。(アンケート) ① -2 校内模試の結果を進路選択に生かされたか。(進路実績)</p>	<p>① -1 進路のしおりを作成し、また進路通信を発行することにより、生徒の進路意識を高めた。さらに模擬試験の振り返りをして、各教科で小テストや課題等の対策をした結果、1月の模擬試験では、偏差値アップにつながった。 ① -2 3年生には模擬試験を実施し、積極的な参加を呼びかけた。そしてその結果を分析し、志望校の決定に生かした。その結果、昨年並み合格者を出すことができた。</p>	<p>① -1 グループ間で連携を取りながら、学力向上チャレンジプランの取組として、家庭学習の習慣化などの方策を考えていく。 ① -2 従来の模擬試験にプラスしGTECを導入し、生徒の実力を正確に把握することにより、的確な志望校の決定に生かす。</p>	<p>①-1 (保護者) 各進路行事が進路選択に役立っているかという問に対し、75%が肯定的な回答をした。進路指導のきめ細かさを求めたい。(学校評議員) 模試等の分析から進路実現に向けた取組につなげてほしい。 ① -2 (保護者) 進路指導の充実度に対し、肯定的な回答は55%だった。2次に学習指導対策を考えてほしい。(学校評議員) 国公立の合格者が減っている。進路状況が昨年度と少し傾向が変わったのでは、看護系の専門学校希望者が増えている。</p>	<p>① -1 進路のしおりを作成し、また進路通信を発行することにより、生徒の進路意識を高めることができた。模試分析会や振り返り等を通し各教科との連携を継続させることが課題である。 ① -2 模擬試験結果を分析し、志望校の決定に生かすことができた。今後は模試の分析から補習などにつなげ、課題解決を図り進路実現に生かすことが課題である。</p>	<p>① -1 学力向上チャレンジプランの一環として、模試分析会や振り返りを活用するとともに、家庭学習の時間を増やし、全体の学力向上につなげる。 ① -2 従来の模擬試験にプラスしGTECを導入することで、自分の学力を客観的に把握し、より自主的な学習意欲の向上を図る。</p>
4	地域等との協働	<p>① 地域との協働を推進し、地域に信頼され、必要とされる学校づくりを推進する。</p>	<p>① -1 地域の他校種や異年齢層の方たちとのSFP講座や行事を実施する。</p>	<p>① -1 全ての職員がSFP活動に取り組み、地域との連携事業を推進する。</p>	<p>① -1 SFP活動への生徒参加人数が増加したか。全ての職員が組織的に取り組んだか。</p>	<p>① -1 5月に地域連携活動を集約し提示したことで、多くの生徒・職員が地域連携活動に参加した。生徒の地域連携実行委員会も、ボランティア活動やパンダバンダまつりの司会進行、県央地区研究発表会などにおいて活躍していた。また、それによって異年齢層の人々とのコミュニケーションを楽しめるようになっていた。</p>	<p>① -1 前年度よりも参加者が増えてはいるが、委員会や部活動、各グループが別々に地域に発信している部分もあるので、年度初めに全生徒職員が共通理解のもとで活動できるような周知活動を図る。</p>	<p>① -1 (保護者) 特色ある学校づくりに取組んでいる、という問に対し、肯定的な回答は56%にとどまった。ホームページの充実についての意見もあった。(学校評議員) 上南は、とても多くの取組を実践している、地域貢献・社会貢献など、人のためになる活動は継続することが大切。</p>	<p>① -1 年度初めに地域連携活動について集約したことで前年度より多くの生徒職員が地域連携活動に参加することができた。今後は、より地元地域に根付くために積極的な広報活動が課題である。</p>	<p>① -1 地元自治会への広報活動や、情報収集活動を活発にするとともに、地域の行事に積極的に参加する。また、生徒の発表や活躍の場を設定する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>① 学校の施設、設備の充実を図る。 ② 職員一人ひとりが持ち味を活かしながらチーム一丸となって、教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む。</p>	<p>① -1 生徒の美化意識の向上と清掃活動を活性化する。 ② -1 相互協力ができる「チームかみなん」を定着させる。</p>	<p>① -1 清掃監督を明確化し日常の清掃指導を徹底する。 ② -1 担当業務を明確にし共有することで、相互に協力し合える体制「チームかみなん」をつくる。</p>	<p>① -1 清掃を充実させることで学習環境を整えることができたか。(アンケート) ② -1 進行管理表に基づいて担当者が相互に協力し合い、業務遂行できたか。</p>	<p>① -1 日常の清掃活動を充実させ、校内美化を進め学習環境を整えることができた。また、県に働きかけた結果、テニスコートの排水工事や中央棟屋上の防水工事が施工された。 ② -1 全ての業務を複数で担当することで、協力し合いながら業務を遂行することができた。</p>	<p>① -1 清掃活動をさらに推進させるための方策を検討し、校内美化の推進を図る。環境美化委員会の活動の活性化を図る。 ② -1 次年度も進行管理表を確認しながら複数担当で協力体制のもと「チームかみなん」として業務を遂行したい。</p>	<p>① -1 (保護者) 清掃の成果について肯定的な回答は59%。トイレ改修を要望する意見が多数。(学校評議員) 校内は清掃されているのだが、校舎が古くトイレが暗い印象を受ける。飾りつけなどの工夫で明るくなる。 ② -1 (保護者) 生徒等のニーズ社会の変化を的確にとらえている、という問に対し、43%が肯定的だった。配付物が保護者に届かない。(学校評議員) 教員も生徒のためによく頑張っている。自己評価の際に数値などの客観性を持たせるなどの工夫もあるとわかりやすい。</p>	<p>① -1 施設設備において、多くの補修工事が行われた。今後は、トイレの環境改善における取組の工夫が課題である。 ② -1 職員間も「チームでチャレンジ」を合言葉に、協力しながら業務を遂行することができた。今後は、学校運営の取組が目に見えるような工夫が必要である。</p>	<p>① -1 トイレ清掃の励行とともに、装飾や掲示物の工夫で、環境の改善を図る。 ② -1 様々な取組がホームページでリアルタイムで更新されたり、マチコミのさらなる活用などで、情報の発信の充実とスピードアップを図る。</p>